

令和3年度 学 校 評 価 書

学校名	北海道白糠高等学校 全日制課程
-----	-----------------

1 重点目標

- (1) 「分かる授業に向けた指導と評価の充実」による学力の向上
- (2) 「できるようになる指導の実施」による自己指導能力の向上
- (3) 「キャリア教育の視点を踏まえた指導の充実」による主体的に進路を選択する能力の向上
- (4) 「生徒の発達の段階を踏まえた指導の充実」による集団や社会の一員としての資質の向上

2 経営方針

- (1) 校内組織の活性化を図るとともに、教職員の学校経営参画意識の高揚を図り、協働意欲に満ちた活力ある学校づくりに努める。
- (2) 保護者や地域の方々、関係機関等からの支援と協力のもと、教育の質の向上を目指し、教職員が学校の抱える課題の解決に前向きに取り組むことができる学校づくりに努める
- (3) 積極的な情報提供や学校評価の充実などにより、保護者や地域の方々から信頼・支持される学校づくりに努める。
- (4) 教員が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革を推進する。

3 自己評価結果について学校関係者評価実施

○自己評価の達成状況・適切さの欄は（「A＝十分である」、「B＝概ね十分である」、「C＝不十分である」、「D＝改善を要する」）を示す。

○右の欄、学校関係者評価：自己評価の適切さの欄は、

「A＝適切な評価である」、「B＝概ね適切な評価である」、「C＝評価がやや不十分である」、「D＝改善を要する」を示す。

○右の欄、学校関係者評価：改善に向けた取組の適切さの欄は、

「A＝適切な取組である」、「B＝概ね適切な取組である」、「C＝取組がやや不十分である」、「D＝改善を要する」を示す。

※青い部分が教職員による自己評価結果等、黄色い部分が学校関係者評価結果である。

※学校関係者評価は評議員により実施。

分野 領域	重点的な取組内容（上段） 評価指標・評価基準（中段） 具体的取組の状況（下段）	自己評価		改善の方策	学校関係者の評価				
		達成 状況	取組の 適切さ		自己 評価 の適 切さ	改善 への 取組 の適 切さ	意見		
学習指 導の改 善・充実	基礎基本を徹底し、わかる授業の実践に努める。	A	A	「わかる授業」の実践のために、授業の工夫が必要である。ICTの有効活用、アクティブラーニング、教科横断的な授業などさまざまな実践が必要である。生徒も変わってきているので、授業方法も変えていくことが重要。先生方の授業見学がきっかけになれば良い。	3.6	3.6	○様々な手法を用いて分かる授業を推進している。 ○基礎基本を重視した授業が多い。		
	生徒による授業評価アンケートの「授業がわかりやすい」の項目で、肯定の回答80%以上達成。								
	授業評価アンケートにおいて、上記項目で肯定の回答が80%以上達成できている。	3.5	3.6						
	観点別評価の充実及び生徒の学習姿勢の確立に努める。	A	B		3.6	3.6		○公営塾とも連携した学習活動が展開されている。 ○大学進学を目指す生徒が増加することを望む。	
成績上位層の増加、成績不振者減少。授業評価アンケートの学習習慣に関する項目で、肯定回答80%以上達成。									
保護 者・地域 への情 報の発 信	成績優秀者が全校生徒の50%以上。成績不振者の大幅減少している。	3.4	3.2	学習が苦手な生徒が多いのが現状であり、自ら学習する習慣が身に付いていない。それぞれに合った効果的な支援が必要である。分からない問題に対しての声かけや指導の工夫をしていく。学校外の学習時間を増やすために、久遠塾やスタディサプリなどの活用を推進していく。	3.8	3.8	○地域と連携した授業が多くあり、地域に根付いた学校作りを進めている。 ○地域の課題を解決する仕組み作りが必要。		
	保護者・地域・関係機関と交流を深め、特色ある教育活動の展開を行い、外部発信を行う。	A	A					3.8	3.7
	ホームページアクセス数 年間6万回以上（月5千） ホームページ更新回数 80回以上（月7回） 地域交流・地域行事・小中高連携 年間10回以上								
PTA 活動の 活発化	アクセス数 82,4161、更新回数 112回（R4/1/20 現在） 各教科において、地域連携を積極的に実施。	3.8	3.7	コミュニティスクールやコンソーシアムなどの取り組みにより、さらに連携ができるようになり、情報発信もできるようになる。それだけに、頼ることなく、それぞれの授業で、どんどん地域と連携して教育活動ができるように努力が必要である。受け身ではなく、学校が地域に出て積極的に教育活動を行っていかなければならない。	3.2	3.2	○コロナ禍において、体育祭での炊き出しや一般公開など、できることに取り組む姿勢に好感が持てる。		
	PTA活動の活性化、推進に努める。	B	A						
	PTA活動参加者 保護者 各10名以上。 教職員 各15名以上								
	PTA総会・役員回・体育祭での炊き出しの実施。 参加保護者も10名程度。	3.3	3.6	コロナ禍ではあるが、感染対策を行いながら、積極的に新たな取組を考えていかなければならない。PTAと地域を巻き込んでの取組の検討が必要である。保護者の参加率を上げるために、町内の保護者から積極的に声かけを行い、保護者が参加しやすい環境作りを行う。					

分野 領域	重点的な取組内容 (上段)	自己評価		学校関係者の評価			
	評価指標・評価基準 (中段)	達成 状況	取組の 適切さ	改善の方策	自己 評価 の適 切さ	改 善 へ の 取 組 の 適 切 さ	意見
	具体的取組の状況 (下段)						
組織的・計 画的進路 指導の充 実	(進学) 生徒に対して志望校合格のための適切な指導と情報提供を行い、第一志望校合格と進学後に必要な学力を身につけさせる。志望校を早期に固め、本人のやる気を持続させながら個に応じた指導を充実させる。「産業社会と人間」を中心に、進学後のキャリア形成も意識した進学指導を展開する。	A	A	主体的に進路を選択できる生徒を増やし、国公立大学一般入試受験にも対応できる校内体制づくりについて、久遠塾や地域教育 CN と連携して行い、講習などを実施する。	3.4	3.4	○進学者の合格率や就職者の内定率が高く、生徒の頑張りはもとより、先生方の熱意ある指導の賜だと感じる。 ○進学・就職ともに、合格しやすいところを受験する傾向が感じられることから、3年間を見据えたキャリア教育の充実を望む。
	進学決定率100%	3.5	3.6	学校、久遠塾、地域教育 CN、生徒、保護者が連携して情報共有し、個別面談などを通して、進学希望生徒の潜在的な教育ニーズを引き出し、適切な進路指導に努める。			
	進学希望者11名中11名合格 (令和4年1月17日現在)	3.5	3.6				
	(就職) 「産業社会と人間」を中心に働くことの意義を理解させ、将来を設計する力と社会常識を身につけさせる。早期離職、内定辞退を防止するために職業生活にかかわる体験的な学習を通して職業観を育成する。個に応じた就職指導を展開し、進路実現に向けて生徒が自ら進んで取り組む環境を整える。雇用情勢の変化に対応し、関係機関と連携を図りつつ、生徒に対して適切な指導と情報提供を行う。	B	A	「産業社会と人間」について、外部機関と連携しICTを活用しながら、自己理解、職業理解を深める取り組みを行う。インターンシップや上級学校見学など、外部に受け入れを要請する教育活動については、代替案や予備日も含め、緊急事態宣言下、重点措置下における実施の在り方を検討する。	3.6	3.6	
0回受験者0名	3.3	3.5	学校、久遠塾、地域教育 CN、生徒、保護者が連携して情報共有し、個別面談などを通して、就職希望生徒の潜在的な教育ニーズを引き出し、適切な進路指導に努める。				
自立心を 育てる指 導の徹底	Q-Uを活用し生徒理解のためのスキル向上に努める。外部機関(スクールカウンセラー、サポステ、白糠養護学校コーディネーター)と連携して適切な支援を行い、教育相談の充実を図る。	A	A	Q-Uの活用については、今後も検討が必要である。研修を行い、活用できる方策を検討しなければならない。	3.6	3.6	○学校が落ち着いており、生徒が生き生きと活動している様子が伺える。 ○先生方が一人ひとりの生徒を大切にしており、生徒との信頼関係の醸成を継続して欲しい。 ○先生方が異動で入れ替わるなかでも、一貫した指導を継いで欲しい。
	Q-Uアンケートを年間2回以上実施 教育相談に関する校内研修の実施	3.5	3.7	スクールカウンセラーを活用しての面談を通じて、学校生活を前向きに取り組むことができるようになった生徒もいる。			
基本的な 生活習慣 マナーや モラルに 関して組 織的な指 導体制の 確立	基本的な生活習慣(あいさつ、言葉遣い、身だしなみなど)の確立に向けた指導体制の構築 情報共有の徹底。できる指導、理解させる指導の実践	A	A	現在は基本的な生活習慣(あいさつ、言葉遣い、身だしなみなど)が身に付いている生徒が多く、学校全体が良い方向へと向かっている。継続した指導を実践していきたい。	3.7	3.7	
	自己指導能力の向上が見られたか	3.5	3.4	・できる指導の実践。 ・生徒会や委員会を中心に取り組みの計画はされているが成果が見られていない。			
他者を思 いやる心 と道徳心 の育成	通信や集会、講演会等を活用し規範意識を育て、SNSの正しい使い方を身につけさせ、誹謗中傷やいじめといった問題行動を招かないよう未然防止に努める。いじめ把握のためのアンケートを年間2回実施。	A	A	面談や生徒観察を通じて、いじめが発展しないよう指導することができた。今後も細かなサインを見逃さないようにしたい。	3.8	3.8	
	積極的ないじめの認知 いじめのない学校生活が送れているか	3.6	3.7	・いじめアンケートの結果を共有し、個別面談を通じて未然防止のための指導をすることができた。 ・12月に「白糠町子ども会議」を実施した。町内のすべての学校が集まり、「白糠町いじめゼロ」に向けて話し合いをすることができた。			
教職員の 「働き方 改革」に 向けた方 針等	○働き方改革に関する校内研修、学校評価の実施。 ○学校閉庁日、定時退勤日、部活動休養日の設定。 ○業務の平準化・効率化に関する業務改善、健康安全管理の実施。	A	A	定時退勤日については、部活動等により定時退勤できない場合は、別日での実施を要請するなどして実効性を高めた。	3.4	3.4	○先生方が忙しい中でも頑張ってくれている様子が伺える。 ○部活動については、超過勤務の温床になっていることでもあるので、より一層の改革を望む。
	○学校閉庁日の設定(年間9日間) ○定時退勤日の設定(月2日間と定期考査期間) ○部活動における休養日の設定(年間73日以上)	3.6	3.6	部活動における休養日の設定等については、道教委の定める規程の範囲内に収まっているが、今後も着実に継続していく必要がある。 校務分掌や学年における業務について、全教員で業務を分かち合う体制作りについて、管理職が主体となって継続的に取り組む必要がある。			

※学校関係者評価は学校評議員によって行う。記述部分が抜粋及び要約をしたものである。

学校関係者の評価は、評価平均値により次の評価基準によってA~Dの評価をしている。

評価基準 (1≦D<2.3 2.3≦C<2.9 2.9≦B<3.4 3.4≦A≦4)

